

# 日本周辺国際魚類資源に関する試験研究

(予算区分 受託 研究期間 平成18年～)  
担当：資源海洋科 石田孝行

## 【研究の背景とねらい】

クロマグロ等の高度回遊性魚類に関して、その資源状態を懸念する声世界的に高まり、国際漁業機関などによってその資源状態を正しく把握することで(資源評価) 必要に応じた種々の管理措置が取られています。

日本周辺水域では、多くの高度回遊性魚類が来遊し、多種多様な漁獲・利用がなされています。これら資源の安定的な利用を確保するため、(独)水産総合研究センターを中心に全国22道県と連携して対象魚種の資源評価に活用する科学的なデータを収集しています。

## 【これまでに得られた成果】

静岡県主要港(16市場)におけるマグロ・カジキ類、サメ類の漁獲統計資料とクロマグロ、カツオの体長測定及び精密測定データを収集・整理しました。

平成26年の静岡県のメジ(クロマグロ幼魚)の水揚量は10トンで(図1)、体長は4月は尾叉長55cmモード、11月は45cmモードの組成を示しました(図2)。

カツオは約3.3万尾を体長測定し、うち413尾は精密測定のため、年齢や成熟度調査のために頭部と生殖腺のサンプルを収集しました。全国の関係道県によるこれらの調査結果は(独)水産総合研究センターによってとりまとめられ、カツオの資源生態の解明や国際漁業機関による資源評価に活用されています。

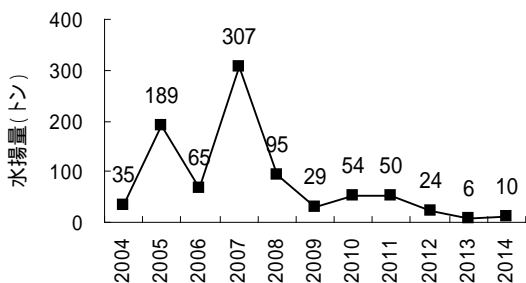


図1 県内メジの水揚量の経年変化

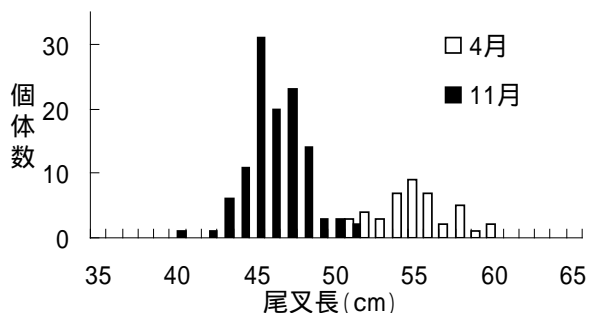


図2 メジの尾叉長組成(平成26年)

## 【期待される成果】

資源評価の解析に使用する漁業種別漁獲量、努力量、漁獲物の尾叉長及び年齢組成、成熟度等の情報収集を継続的に実施することにより、太平洋を広く回遊するカツオ・マグロ類の適正管理に貢献できます。毎年蓄積された信頼性の高いデータは、国際的な漁業交渉の場で日本の立場を主張する有力な裏付けとなり、関係漁業の経営安定に寄与します。

## 【今後の計画】

高度回遊性魚類の資源評価のため16市場における水揚状況調査とクロマグロとカツオの生物測定調査を継続します。

(作成 平成27年4月)